

議 事 録

件 名	第 26 回外傷等動向調査委員会	
日 時	令和 8 年 5 月 12 日 18 : 30 ~ 20 : 35	
場 所	久留米市役所 4 階 401 会議室	
出席者	委 員	山下 典雄 委員長 久留米大学 医学部教授 三宮 貴彦 副委員長 一般社団法人 久留米医師会 理事 古賀 仁士 委員 社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 副院長兼救急救命センター長 松本 竜太 委員 損害保険ジャパン株式会社 担当部長兼久留米保険金サービス課長 村田 康裕 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 藤田 利枝 委員 久留米市保健所長 石橋 真弥 委員 (代理) 久留米市協働推進次長
	オブザーバー	白石 陽子 日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
	事務局	新郷課長、柳補佐、新村補佐、田中 (協働推進部安全安心推進課) 大下次長、田中補佐、坪久田 (保健所総務医薬課)
	対策委員会事務局	石橋次長 (協働推進部)、石井主査 (交通安全)、佐藤主幹、緒方補佐 (児童虐待防止)、松田、櫻井 (学校安全)、古賀課長、池神補佐、岡本 (高齢者の安全)、志方 (防犯)、神代所長、古賀主査 (DV 防止)、野口主幹、石井主査 (自殺予防)、佐野課長、塩見主査 (防災)
欠 席 者	なし	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷等動向調査委員会の役割について 2. 久留米市の安全安心に関する統計データについて 3. 各対策委員会の取組について 4. その他 	
< 議 事 概 要 >		
	開会 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から開会宣言 ・委員自己紹介 ・傍聴確認 (傍聴希望者なし) ・オブザーバー紹介 	
安全安心推進課 柳補佐	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外傷等動向調査委員会の役割について <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 に沿って役割を説明。 	
安全安心推進課 田中	<ol style="list-style-type: none"> 2. 久留米市の安全安心に関する統計データについて <ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 に沿って説明。溺死溺水については増加している。ヒートショックについて啓発チラシなどを配布した。 	

議事録

<p>オブザーバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の転倒について、人口が増えているため転倒する方も増えている。転倒対策をしている方としていない方の差があると感じる。高齢者の中でももっと年齢を細かく分けて分析したデータはあるか。
<p>安全安心推進課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、そのようなデータはないが、データの見方等を今後考えていきたい。
<p>対策委員会</p>	<p>3. 各対策委員会の取組について</p> <p>【交通安全対策委員会】</p> <p>対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
<p>委員①</p>	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の免許返納を推進していくべき。代替の交通手段がないなら難しいかもしれない。 ・自転車事故はドライバーも意識すべき。法改正があったとおり警察が取り締まるべきでは。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な対策方法等検討につなげるため、自動車と自転車の事故件数を車両事故として集計せずに個々で管理すべきでは。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料では確認できないが、高齢者の自転車事故の受診者は増加している。高齢者に対しても啓発すべきでは。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路交通法改正に伴い、高齢者から出前講座の申し込みが増加している。高齢者向けの啓発もしていく。
<p>委員③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実態を理解することで対策につながるので、まずは現状を伝えていくべき。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティや事業者との連携によって伝えていきたい。反射材の活用促進にもつなげたい。
<p>委員④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交通事故は飛び出し事故が多い気がするので啓発をしてほしい。 ・反射材の活用促進について、地域の幼稚園や保育園と連携して子どもの手作りでお渡ししたら喜んでつけてくれるはず。
<p>委員⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物損事故と人身事故を分けて集計してほしい。

議事録

<p>対策委員会</p>	<p>【児童虐待防止対策委員会】 対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
<p>委員③</p>	<p>【意見・質問】 ・子どもの SOS の発信方法は具体的にどのようなものがあるのか。</p>
<p>対策委員会</p>	<p>・所属している学校や保育園の先生に相談し、その後家庭子ども相談課や児童相談所に連絡という流れで支援や指導につながる。</p>
<p>委員③</p>	<p>・子どもからしたら先生に伝えることは、ハードルが高い。先生から話せる機会をつくると、話しやすいかも。</p>
<p>対策委員会</p>	<p>・小学校 4 年生には、年に 1 度、授業で相談する練習を兼ねたトークタイムを実施しており、そこから実際の相談につながることもある。いじめアンケートを月に 1 回行っている学校もあるので、そこから相談につながることもある。</p>
<p>委員④</p>	<p>・資料 9 ページの相談件数は、どのような手法で把握しているのか。</p>
<p>対策委員会</p>	<p>・NPO 法人に委託している CAP プログラムから報告があった件数である。</p>
<p>委員④</p>	<p>・CAP プログラムの参加者が増えれば、相談も増えるのでは。 ・50 件前後という相談件数についてどういう評価をしているのか。</p>
<p>対策委員会</p>	<p>・参加者が増えれば相談件数も増えると思う。 ・件数としては少ないという認識。CAP プログラムは令和 3 年に開始した事業。事業開始前は 0 件だったため少しずつ増えていくという考え。</p>
<p>委員⑥</p>	<p>・相談に対してどう対応したのか。 ・相談後の対応を提示することで子どもに伝えやすい。</p>
<p>対策委員会</p>	<p>・児童虐待の相談に関しては、学校で児童の面談を行う。聞き取り後、親に対して指導を行う。その後は要保護児童対策地域協議会にて支援の進捗管理をしているため、学校に聞き取りを行い良好な状況が継続していれば管理を終結し、支援も終了する。大人に言わないでほしいという子どもには SOS の出し方や連絡先を伝える。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>・中学年や高学年は、AI に相談している子も多いのでは。対面が苦手な子が多い時代なので、オンライン等の相談方法を取り入れると相談しやすいのでは。</p>

議事録

<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭子ども相談課では、電話相談か対面の対応しか行っていない。こども子育てサポートセンターで結（ゆい）らいんというものを設置しているため、久留米市の事業としてはメールでの相談も可能である。国が行っているLINE相談もある。
<p>委員④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんふれあい体験に外国人の参加者はいるのか。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参加の呼びかけ等は行っているが、現時点で外国人の参加実績はない。
<p>委員⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんふれあい体験の参加はボランティアなのか。現金でなくても、粗品をお渡しするとよいのでは。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアではあるが、お茶やくるっぱの反射板、手づくりの名前入りワッペン等をお渡ししている。校区ごとにかたちは違うが、喜んでいただけるよう工夫している。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の発生件数の内訳はどうなっているのか。 ・発生件数が増加していることに関しては、どう認識しているのか。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口や電話、相談支援事業所・児童相談所を経由した相談、住民基本台帳管轄課からの相談等すべてを含んだものである。 ・周知啓発の効果により、市民の意識が変わり比較的軽微な相談もあがっていると実感している。表面化したことによって相談件数は増加しているが、長期的に見て増加し続けてよいものではない。児童虐待を予防するためにも、しっかり周知啓発を行う。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が減っているから、本来なら相談件数も減っていくべき。人口に対しての発生率を可視化するべきでは。
<p>オブザーバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者へのアプローチは手厚いが、加害者へもアプローチしていくべきでは。更生講座や更正プログラム等の受講数も数値化していくとよい。
<p>対策委員会</p>	<p>【学校安全対策委員会】</p> <p>対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
<p>委員①</p>	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米市は、なぜいじめの認知件数が増えているのか。よいことなのか。

議事録

対策委員会	<ul style="list-style-type: none">・文科省にて、いじめの認知件数は支援の数と言われており、認知件数は多いことが推奨されている。認知することで早期発見となり、いじめの芽を摘むことにつながる。
委員②	<ul style="list-style-type: none">・小学校にて救命講習の実施と記載あるが、令和8年度については消防本部より中学校でも全校実施を目標としている。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none">・実践型の素晴らしい講習だと認識している。
委員④	<ul style="list-style-type: none">・児童のけがの集計は、例えばQRコードを読み込んで項目をチェックするだけにしておくと、負担が少なくデータを収集できるのでは。
委員⑤	<ul style="list-style-type: none">・不審者情報の報告件数だが、増えているのは防犯意識が高まっているという認識でよいのか。・そのとおりである。子どもが不審だと感じて報告をしたものすべてが集計されている。
対策委員会	<p>【高齢者の安全対策委員会】</p> <p>対策委員会より資料に沿って説明。</p>
委員②	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none">・消防としても、高齢者の転倒等の救急搬送件数が増加しているため、課題として認識している。高齢者を中心に健康づくりの活動をしているが、高齢者の前段階の50代、60代にもアプローチすることによって、転倒予防に繋がるのではないか。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none">・関連課と連携し、若い世代への健康づくりに取り組みたい。
委員④	<ul style="list-style-type: none">・フレイルという言葉があるように、運動だけでなく食事も転倒予防に繋がることを伝えていくべき。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none">・介護予防事業として工夫して取り組みたい。

議事録

<p>対策委員会</p>	<p>【防犯対策委員会】 対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他自治体では、警察庁が推進している「詐欺バスターズ」というアプリを活用している。アプリの利活用促進も防犯活動に繋がるのでは。 ・地域における防犯活動については、ランニングしながらパトロールする「パトラン」を実施していたという認識であるが、現在も実施しているのか。防犯意識の高い市民が多いのであれば、通勤時や犬の散歩等のながら防犯が効果的なのでは。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ながら防犯に関しては、実施できていなかったため今後検討していく。
<p>委員③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4割の市民が関心をもっているので、参加方法を周知していくべきでは。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各校区からの情報誌に掲載する等、校区との接点をつくる機会とあわせて情報発信に努める。
<p>委員③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関心を持ってもらうことが防犯に繋がる。現役世代は忙しくて手が回らない方が多いので、定年退職後の方に協力してもらうのがいいのでは。
<p>委員⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ながら防犯については、ペットショップ等に犬の散歩でのながら防犯について貼りだしたらどうか。
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詐欺は本人がもっと自覚してほしい。 ・不登校者については、情報の伝え方を工夫するべき。 ・定年退職後も再雇用で働かなければならない方が大半のため、定年退職後の方に協力してもらうことも難しいはず。
<p>対策委員会</p>	<p>【DV防止対策委員会】 対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
<p>委員①</p>	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は家庭事情を公言することに抵抗がある。自分が被害者という自覚もしていない。グループワークや座談会等で、DVとはどういうものなのか伝えていくべきでは。
<p>対策委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の出前講座で、性別役割分担意識やDVについて説明している。周知啓発のために今後も続けていきたい。

議事録

委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・「男は仕事、女は家庭」というアンケート結果をもとにDVについての考えを図るのはどうなのか。「女性が働いて男性が家事をしている家庭もあるので、働いているかどうかでDVと判断すると物事の本質を見失うのでは。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・DVは、暴力や権力という力を利用して一方的に支配する関係性で生まれてくるものだと考えている。DVの多くが男性から女性に向けられているという実態がある。男性は仕事、女性は家庭という固定的な役割分担意識からくる上下関係や主従関係、社会的地位や経済力格差が原因と認識している。DVについて知ること、容認しない意識づくりということで啓発活動をしている。
委員⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等は当たり前だが、多様性があるって選べる必要があると思う。子どもを育てるほうが大変だというプライドを持っている人もいるから、働くことを選択ができる必要があると思う。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で協力し合うことを推進している。性別ではなく、多様性の中で様々な生き方を尊重できるよう啓発していきたい。
対策委員会	<p>【自殺予防対策委員会】</p> <p>対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
委員③	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちの電話や相談件数のデータはあるか。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちの電話の件数はないが、令和7年度の保健所への相談件数は、2,008件である。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所への相談はどのように対応したのか。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容に応じて、精神科や庁内の各関係機関に情報を提供して対応している。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・40代、50代の働く世代の自殺者が多い。労働者はストレスチェックをできているが、主任者はできていないと思う。ストレスチェックができていない主任者に声をかけていくべきだと思う。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査にて、相談に行くことができない方が一定数いらっしゃるということは認識している。周囲の気づきが大事だと思うので、ゲートキーパーの研修や、かかりつけ医・精神科医と連携して取り組んでいく必要があると思う。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺未遂者が何度も自殺未遂を繰り返すことについてはどう対応しているのか。

議事録

対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺者のデータを見ると、4・5年に1人くらい自殺未遂者が自殺しているため、自殺未遂者への対策はとても重要だと思う。かかりつけ医と精神科医の連携等により、未遂者の支援に力を入れていきたいと思っている。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体の救急搬送データを見ると、自殺未遂者本人が繰り返し通報している。これはSOSの1つの手法だと思う。ゲートキーパー講座は救急や警察も受けているのか。警察や救急もゲートキーパーの知識があればいいのかなと思う。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・久留米市でゲートキーパー講座は行っていない。
対策委員会	<p>【防災対策委員会】</p> <p>対策委員会より資料に沿って説明。特に（キ）（ク）について説明。</p>
委員②	<p>【意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを進める中で、若年層に向けた方法の一つとして、ほかの委員会でも出たようにSNSの活用が効果的だと思う。久留米市のYouTube登録者数が5,000人程度。さらに登録者数を増やすことで若年層にも情報提供できるのではないかな。また、久留米市公式LINEも活用するとよいのでは。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・各校区の防災士は、どのような方が多いのか。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士・防災リーダーは、各校区からの推薦を依頼している。校区の役員や校区の自主活動者は比較的高齢者が多いため、防災士や防災リーダーの推薦方法を工夫し、PTAや父兄の方等、若年層の方をご推薦いただくよう依頼している。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害があった場合の、防災士や医療従事者の指揮はどうやってとるのか。電気が止まり、電話が繋がらない可能性もある。連絡方法について、ご一考いただければ。
対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地上の影響を受けない衛星通信を確保するため、通信事業者と連携し、防災訓練や通信復旧訓練としてスターリンクを実際に設置する訓練をしている。1つの手段では対応できないこともあるため、IP無線のように他の連絡手段を確保できるよう努めている。 <p>4. その他 なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の議題は以上で終了としたい。 <p>【了】</p>